

平成30年度

公立小野町地方総合病院「地域医療体験研修」 報告書

- 日時 • 1コース 平成30年7月24日（火）～26日（木）
- 2コース 平成30年8月21日（火）～23日（木）
- 参加者 • 1コース 福島県立医科大学医学部生 3年生 14名
- 2コース 福島県立医科大学医学部生 3年生 6名
- 開催場所 公立小野町地方総合病院ほか



公立小野町地方総合病院

介護施設・診療所（施設見学・医師講話）



【こまち荘施設見学】

（ポストアンケート等より）

- 医療と福祉の連携の重要性について学ぶことができた。
- 認知症患者を診るような科を志望しているため見学できて良かった。
- 入浴介助の大変さなど、新たな発見があった。

【内容】

- 特別養護老人ホーム「こまち荘」の地域における施設の役割や当院との連携について説明を受けた。
- 都路診療所にて、施設見学や医師からは地域医療に対する考え方や体験談などについて講話をいただき、意見交換を行った。



【都路診療所医師講話・見学】

（ポストアンケート等より）

- 診療所の仕事について、具体的な話を聞くことができ想像しやすくなった。
- 診療所で働くことに対して興味があるが、不安もあり実際に話を聞きやってみたいという気持ちが強まった。
- 自分の進路にへき地での医療を考えるきっかけとなった。

病院研修・乳幼児健診



【内容】

- 入院・外来診療の見学や通院患者とのコミュニケーションを通して、地医療の現状や住民の考えについて理解を深めた。
- 乳幼児健診を通して、医療と行政の関わり、地域における子育て支援の必要性について理解を深めた。



【病院研修】



【乳幼児健診】

（ポストアンケート等より）

- 病棟見学では一人一人の患者さんの病態や目標の説明があり印象に残った。
- 様々な患者さんの家族状況を踏まえ、退院後どうするかも考え仕事をしている事が分かった。
- 実際に受診している患者さんの立場に立って診察から会計までを体験し患者さんの大変さ分かった。

（ポストアンケート等より）

- 体重、身長測定方法を知ることができた。
- 短時間で正確な診断をするためには、もっと知識が必要だと感じた。
- 乳幼児健診の際チェックすべき項目を知ることができた。
- 母子ともに安心できる仕組みが素晴らしいと感じた。
- 医師からの質問に答えられず、自分の勉強不足を感じ、学習意欲を掻き立てられた。

訪問診療・平田村健康教室



【訪問診療】

【内容】

- 在宅医療の現場へ医師・看護師と同行し、訪問診療について見学を行った。
- 平田村健康教室に参加し、血圧測定や健康相談を通して住民との交流を行った。

【ポストアンケート等より】

- 医師と患者・家族との距離が近く感じられ、相談などもしやすそうに思えた。
- 訪問診療は、家族とのコミュニケーションが大切だと感じた。
- 通院が難しい患者のためには、訪問診療は大切なものと思えた。
- 少ない時間で見落としのない診察を行うためには多くの知識が必要だと感じた。



【健康相談】



【血圧測定】

【ポストアンケート等より】

- 初対面の方に問診をすることの難しさが分かった。
- 住民からの医大生に対する期待が大きかった。
- 患者が不安に思っていることは、訴えのではなく、会話の中で発していくのだと思った。